

科目の教育目標・授業計画					「2025年度」		学 科 名	介護福祉学科
科目番号	401	科 目 名	アクティビティ			科目区分	兼任実務経験教員	
科 目 群	介 護 教 養科目	担当講師	上野 幸			履修区分	必修	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	演習	
教 科 書	1 分間指体操プラス できる認知症予防 （ミネルヴァ書房）		寝ながら （ミネルヴァ書房）	参考書				
成績評価	実技発表（10%）、レポート（20%）、筆記試験（70%）で評価する							

1. 授業概要

- ・レクリエーションアクティビティの考え方や意義を理解する。
- ・レクリエーションアクティビティと援助者の役割について理解する。
- ・レクリエーションアクティビティの個別計画作成能力および実践能力を習得する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・レクリエーションアクティビティの意義や目的を理解する。
- ・レクリエーションアクティビティの支援方法、特に個を重視して行うことを理解する。
- ・レクリエーションアクティビティ計画の基本を習得し演習を通じて実践できるようにする。

3. 授業計画

前期	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
後期	
1	生活時間の構造とレクリエーション
2	レクリエーションアクティビティの意義と目的
3	集団でのレクリエーションアクティビティの必要性
4	レクリエーションアクティビティの企画方法・計画及び作成
5	レクリエーションアクティビティ指導法
6	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティの実際①

7	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティの実際②
8	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティの実際③
9	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習①
10	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習②
11	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習③
12	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習④
13	高齢者・障害者のレクリエーションアクティビティ演習⑤
14	まとめ
15	筆記試験

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1101	科 目 名	こころとからだのしくみ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころと からだの しくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」第2版（中央法規出版） ・「ぜんぶわかる人体解剖図」（成美堂出版）			参考書			
成績評価	出席状況、レポート・小テスト50%、科目修了試験						

1. 授業概要

- ・人間としての基本的欲求や、生命維持のしくみ等を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。

2. 到達目標

- ・人間の「こころ」（欲求・自己概念等）、「からだ」（生命維持・人体）のしくみが理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	こころとからだのしくみを理解する必要性・意義、「健康」とは何か
2	こころのしくみの理解 : 人間の欲求とは
3	こころのしくみの理解 : こころのしくみの基礎①
4	こころのしくみの理解 : こころのしくみの基礎②
5	からだのしくみの理解 : 細胞、脳・神経系
6	からだのしくみの理解 : 感覚器系
7	からだのしくみの理解 : 呼吸器・循環器系
8	からだのしくみの理解 : 消化器系
9	からだのしくみの理解 : 泌尿器系
10	からだのしくみの理解 : 骨・筋肉・神経系
11	からだのしくみの理解 : 調節・修復・再生するしくみ
12	からだのしくみの理解 : 血液・体液・リンパ液
13	からだのしくみの理解 : からだのしくみのまとめ
14	からだのしくみの理解 : 薬の知識
15	こころとからだのしくみの理解 : テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1701	科 目 名	パソコン演習			科目区分	兼任実務経験 教員
科 目 群	一般教養 科目	担当講師	半田 仁			履修区分	選択
開講学年	1年次	開講学期	前期	単 位 数	1	授業形態	演習
教 科 書	できる Word & Excel & PowerPoint 2021～Office 2021&Microsoft 365 両対 応～（インプレスブックス）			参 考 書			
成績評価	授業貢献度 20%、出席状況 20%、提出課題 54%、実技試験 6%などで総合的に評価する。						

1. 授業概要

- ・パソコンの基本操作から業務処理ソフト（Office）の活用スキルを修得する基礎コースである。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、パソコン等に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・パソコン形状（デスクトップ型、ノート型、タブレット型）が変わっても使用することができる。
- ・付属ソフトを使用して、必要な情報の整理・分析・抽出などが出来る。
- ・各ソフトを使用して、必要に応じた文章、表、資料をパソコンで作成することができる。
- ・必要に応じて、周辺機器を活用することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業ガイダンス、パソコン（OS）、付属ソフト、業務処理ソフト（Office）の基本操作 キーボード、マウス、プリンター、補助記憶装置（USB）など、周辺機器の使用方法
2	ワードプロセッサソフト（Word）使用方法（文章の作成、文章の編集など）自己紹介文作成
3	応用機能、箇条書きと段落番号、表構造の基本設定
4	画像の活用①（クリップアート、ワードアート、図形描画など）ポスター作成
5	画像の活用②（スクリーンショット、付属画像処理ソフトなど）
6	表計算ソフト（Excel）使用方法（データ入力、表の作成など）カレンダー作成
7	ワークシートの活用（セルの編集、書式設定、行・列の挿入と削除、結合・分割など）
8	関数の利用①（数式、集計関数、検索関数など）勤務表作成
9	関数の利用②（SUM関数、AVERAGE関数、IF関数など）
10	応用機能（グラフ作成など）
11	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）使用方法（スライド作成など）課題作成
12	テンプレートの利用、文字入力と構成など
13	応用機能（動画挿入、アニメーション効果、画面切り替え効果など）
14	プレゼンテーション準備、スライドショーなど
15	まとめ、期末考査（実技試験）

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	一般教養講座			科目区分	兼任
科 目 群	一 般 教 養科目	担当講師	沢田 雄太、麻生 裕之			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価	各課題の成績と出席を総合的に評価する						

1. 授業概要

一般教養講座Ⅰの復習や応用として、数学は式の計算、展開・因数分解、平方根、方程式、関数、相似、図形の面積・体積など。国語は漢字の読み・書き、類義語・対義語、熟語、同訓異字・同音異義語など。他に新聞記事を読んで設問に答える新聞読解があります。

2. 到達目標

・数学・国語・新聞読解の学習により、社会人として相応しい基礎学力・一般教養を身につけ、就職試験にも対応できるようになる。

3. 授業計画

後期			
1	漢字：一字漢字の読み・書き①	数学：多項式の乗法・公式	読売ワークシート
2	漢字：一字漢字の読み・書き②	数学：式の展開・因数分解	読売ワークシート
3	漢字：一字漢字の読み・書き③	数学：根号を含む式の乗法	読売ワークシート
4	漢字：熟語の読み・書き①	数学：根号を含む式の計算	読売ワークシート
5	漢字：熟語の読み・書き②	数学：2次方程式とその解	読売ワークシート
6	漢字：熟語の読み・書き③	数学：2次方程式の解き方	読売ワークシート
7	漢字：複数の音読み・訓読み	数学：2次方程式の利用	読売ワークシート
8	漢字：誤りやすい読み・書き	数学：関数 $y = ax^2$ ・グラフ	読売ワークシート
9	漢字：同訓異字・同音異義語	数学：2次関数の変域・変化の割合	読売ワークシート
10	漢字：二字熟語	数学：放物線と直線	読売ワークシート
11	漢字：三字熟語	数学：相似な図形・相似の利用	読売ワークシート
12	漢字：四字熟語	数学：相似な図形の面積比・体積比	読売ワークシート
13	漢字：類義語	数学：円周角の定理・利用	読売ワークシート
14	漢字：対義語	数学：三平方の定理・利用	読売ワークシート
15	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	一般教養講座			科目区分	兼任
科 目 群	一 般 教 養科目	担当講師	沢田 雄太、麻生 裕之			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価	各課題の成績と出席を総合的に評価する						

1. 授業概要

基礎学力の向上と就職試験対策を目的として、皆さんが過去に学習した範囲の数学と国語の復習を行います。数学は式の計算、展開・因数分解、平方根、方程式、関数、相似、図形の面積・体積など。国語は漢字の読み・書き、類義語・対義語、熟語、同訓異字・同音異義語などです。また新聞記事を読んで設問に答える新聞読解の3科目となります。

2. 到達目標

・数学・国語・新聞読解の学習により、社会人として相応しい基礎学力・一般教養を身につけ、就職試験にも対応できるようになる。

3. 授業計画

前期			
1	漢字：読み取り・書き取り①	数学：式の計算	読売ワークシート
2	漢字：読み取り・書き取り②	数学：多項式と単項式の乗除	読売ワークシート
3	漢字：形が似ている漢字	数学：乗法公式	読売ワークシート
4	漢字：同音異義語・同訓異字	数学：因数分解	読売ワークシート
5	漢字：敬語表現・熟語	数学：平方根	読売ワークシート
6	漢字：類義語・対義語	数学：1次方程式	読売ワークシート
7	漢字：ことわざ・慣用句	数学：連立方程式	読売ワークシート
8	漢字：三字熟語・四字熟語	数学：2次方程式	読売ワークシート
9	漢字：音読み・訓読み①	数学：2次方程式の活用	読売ワークシート
10	漢字：間違いやすい漢字①	数学：1次関数	読売ワークシート
11	漢字：学習漢字の音訓	数学：関数 $y = ax^2$	読売ワークシート
12	漢字：熟語の成り立ち・読み方	数学：立体の表面積・体積	読売ワークシート
13	漢字：故事成語・名言格言	数学：平行線と角・相似	読売ワークシート
14	漢字：間違いやすい漢字②	数学：三平方の定理	読売ワークシート
15	漢字：まとめ	数学：まとめ	読売ワークシート

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0601	科 目 名	介護とコミュニケーション A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・新・介護福祉士養成講座 5「コミュニケーション技術」第2版 (中央法規出版)			参考書			
成績評価	レポート30% 試験70%						

1. 授業概要

- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの意義や特徴について学ぶ。
- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの基本的な過程について学ぶ。
- ・利用者・家族とのコミュニケーションの実践と、利用者の力を引き出す支援の方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護の実践におけるコミュニケーションの意義・目的・役割について理解できる。
- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの基本的な過程を理解し、展開することができる。
- ・様々な場面における利用者・家族とのコミュニケーションの実践について理解し、コミュニケーションを通して利用者の力を引き出し、支援するための基礎的な技術を身につける。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護におけるコミュニケーションとは、コミュニケーションの意義・目的
2	介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションとは
3	介護におけるコミュニケーションの基本 介護におけるコミュニケーションの対象
4	コミュニケーションの基本技術 コミュニケーション態度に関する基本技術
5	コミュニケーションの基本技術 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
6	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーションの基本技術①
7	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーションの基本技術②
8	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーションの基本技術③
9	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーションの基本技術④
10	コミュニケーションの基本技術 目的別のコミュニケーションの基本技術⑤
11	コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術①
12	コミュニケーションの基本技術 集団におけるコミュニケーション技術②
13	家族とのコミュニケーション 家族との関係づくり
14	家族とのコミュニケーション 家族への助言・指導・調整
15	試験、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0801	科 目 名	介護過程Ⅰ			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第2版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	授業の提出物とレポート 100%						

1. 授業概要

- ・利用者が安心してその人らしく生活するために必要な介護過程の意義を学ぶ。
- ・介護過程の全体像を理解する。
- ・自立に向けた介護過程のアセスメントから計画の立案までの展開方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者の生活を支えるために、どのような介護の実践においても介護過程の展開における思考方法が基盤となることを理解する。
- ・自立に向けた介護過程の展開について、アセスメントから計画立案までの具体的な方法を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、到達目標、方法、評価について 介護過程の意義・目的：介護過程とは何か、介護過程の意義と目的／事例
2	介護過程の全体像の理解①：介護過程の全体像の理解／身近な事例で考える課題解決過程①
3	介護過程の全体像の理解②：身近な事例で考える課題解決過程②／各プロセスの理解
4	アセスメントの視点①：介護過程の展開の視点（ICF・尊厳を守るケアの実践・個別ケアの実践・生活と人生の継続・生きがいと役割・自立支援・多職種協働と連携・根拠に基づく介護）
5	アセスメントの視点②：ICFの視点に基づくアセスメントの基礎理解（ICFとは何か・ICFの特徴・構成要素）
6	アセスメントの視点③：ICFの視点に基づくアセスメントの情報収集／事例
7	アセスメントの支援④：ICFの視点に基づくアセスメントの解釈・関連付け・統合／事例
8	アセスメント①：情報収集の理解
9	アセスメント②：情報収集の実際／自立に向けた介護過程の展開（事例）
10	アセスメント③：ICFの視点に基づくアセスメント／自立に向けた介護過程の展開（事例）
11	アセスメント④：解釈・関連付け・統合／自立に向けた介護過程の展開（事例）
12	アセスメント⑤：課題と課題の優先順位／自立に向けた介護過程の展開（事例）
13	計画①：目標（介護の目的と目標・活動と参加・「できる活動」「している活動」「する活動」）／自立に向けた介護過程の展開（事例）
14	計画②：支援の内容／自立に向けた介護過程の展開（事例） 実施と評価について
15	前期まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0802	科 目 名	介護過程Ⅱ			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第 2 版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	授業の提出物とレポート（事例 1 ～ 3、実習事例） 100%						

1. 授業概要

・事例を通して自立に向けた介護過程の展開及び、利用者の状態に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。 ・ICFの視点に基づくアセスメントの特徴への理解を深める。 ・根拠ある介護を実践するための専門的視点の活用と、チームアプローチの方法について学ぶ。 ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。 ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

・テキストの事例から、自立に向けた介護過程と利用者の状態に応じた介護過程の展開方法を理解する。 ・介護過程の展開におけるチームアプローチと介護福祉士の役割を理解する。 ・介護過程の展開方法を修得し、実際の利用者を理解し、アセスメントすることができる。

3. 授業計画

後期	
1・2	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価／介護過程Ⅰの復習 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：事例 1（情報収集）
3・4	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：事例 1（事例の理解・アセスメントの視点） 利用者の状態に応じた介護過程の展開③：事例 1（ICF の視点に基づくアセスメント）
5・6	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：事例 1（ICFから関連図の作成） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：事例 1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
7・8	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：事例 1（介護計画の立案） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：事例 1（介護計画の検討）
9・10	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：事例 1（介護計画の発表・実施） 利用者の状態に応じた介護過程の展開⑨：事例 1（評価・まとめ）高齢者施設実習に向けて
11・12	介護過程の展開の理解①：事例 2（実習事例の振り返り） 介護過程の展開の理解②：事例 2（実習事例の報告）
13・14	介護過程の展開の理解③：事例 2（実習事例のアセスメント修正） 介護過程の展開の理解④：事例 2（実習事例の介護計画の立案）
15・16	介護過程の展開の理解⑤：事例 2（実習事例の介護計画の検討） 介護過程の展開の理解⑥：事例 2（実習事例の介護計画の発表・実施）
17・18	介護過程の展開の理解⑦：事例 2（実習事例の評価・まとめ） 介護過程とチームアプローチ①：ケアマネジメントとは
19・20	介護過程とチームアプローチ②：介護サービス計画と介護過程・サービスの種 介護過程とチームアプローチ③：多職種連携と介護福祉士の役割
21・22	介護過程とチームアプローチ④：事例 3（事例の理解・情報収集） 介護過程とチームアプローチ⑤：事例 3（事例の理解・アセスメントの視点）

23・24	介護過程とチームアプローチ⑥：事例 3（ICFの視点に基づくアセスメント） 介護過程とチームアプローチ⑦：事例 3（ICFから関連図の作成）
25・26	介護過程とチームアプローチ⑧：事例 3（解釈・関連付け・統合化・課題の明確化） 介護過程とチームアプローチ⑨：事例 3（解釈・関連付け・統合化・課題の明確化）
27・28	介護過程とチームアプローチ⑩：事例 3（介護サービス計画の原案の作成） 介護過程とチームアプローチ⑪：事例 3（介護サービス計画の原案の作成）
29・30	介護過程とチームアプローチ⑫：事例 3（サービス担当者会議・介護サービス計画の決定） 介護過程とチームアプローチ⑬：事例 3（サービス担当者会議・介護サービス計画の発表・まとめ）

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1001	科 目 名	介護実習 A（通所・有料老人ホーム）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 山田弥生 佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』第 2 版（中央法規）			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	実習状況、実習に関連する書類、施設評価票と教員の評価、出席状況などをみて総合的に評価する。各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。 高齢者通所実習 5/7、有料老人ホーム実習 2/7 の配分で評価する。						

1. 授業概要

- ・通所施設および有料老人ホームで実習し、介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作り、介護専門職の役割について学ぶ。
- ・実習指導者につき、利用者の日常生活支援の実際について指導を受ける。
- ・高齢者通所実習においては、週 1 回、実習巡回教員が施設・事業所を訪問する。実習生は状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景（家族、生活歴等）を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。

3. 授業計画

前期
【高齢者通所実習】 1年次 7月(5日間) 通所介護サービス事業所、通所リハビリテーションサービス事業所、小規模多機能型居宅介護事業所で行う。
(1) 通所サービスの機能と役割、実習施設の理念について理解する。
(2) 通所サービス利用者の特徴と利用の目的を学ぶ。
(3) 通所サービスにおける介護職の生活支援の内容について学ぶ。
(4) 利用者との基礎的なコミュニケーションを実践する。
(5) 実習での学びを正確にわかりやすく記録することができる。
【有料老人ホーム実習】 1年次 9月(2日間) 特定施設入居者生活介護事業所(有料老人ホーム)で行う。
(1) 居住系サービスとしての有料老人ホーム(特定施設)の機能と役割、実習事業所の理念を理解する。

(2)住まいの環境と入居者の特徴、利用の目的を理解する。
(3)入居者の一日の生活の流れと自立に向けた生活支援の内容を学ぶ。
(4)入居者個々のライフスタイルを知り、価値観を尊重したコミュニケーションを実践する。
(5)実習での学びを正確にわかりやすく記録することができる。

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	1002	科 目 名	介護実習 B（障害者サービス）		科目区分	専任 実務経験教員	
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 山田弥生 佐伯久美子		履修区分	必修	
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』第 2 版 （中央法規）			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	実習状況、実習に関連する書類、施設評価票と教員の評価、出席状況などをみて総合的に評価する。各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・障害者（知的障害者、身体障害者、精神障害者）の利用している施設において、介護を必要とする利用者や就労訓練等で社会参加と自立に向けた支援を必要とする利用者との人間的な関わりを持つ。
- ・利用者との関わりを通じて、障害者への偏見や差別意識について考え、当事者への理解を深める。
- ・利用者の個別ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作りや役割、多職種連携について学ぶ。
- ・実習指導者につき、日常生活支援や、社会参加に向けた自立支援並びに、地域社会における共生を目指す、ノーマライゼーションおよびインクルージョンの実際について学ぶ。
- ・週 1 回、実習巡回教員が施設・事業所を訪問する。実習生は状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景（家族、生活歴等）を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・職員の指導を受けて、学校で学んだ一部の生活支援技術の実践ができる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。

3. 授業計画

後期
【障害者サービス実習】 1 年次 後期（6日間） 障害者支援施設、障害福祉サービス事業所（生活介護、就労継続支援等）で行なう実習。
（1）障害者総合支援法に基づく障害者支援施設または障害福祉サービス事業の機能と役割および実習施設・事業所の理念を理解する。
（2）さまざまな利用者の生活像と障害像を理解する。
（3）障害特性や、利用者のニーズに応じた生活支援の内容と方法を学ぶ。

(4) 障害特性に応じたさまざまなコミュニケーション方法を学ぶ
(5) 正確にわかりやすく記録を行い、基礎学習を踏まえた振り返りができる。

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1003	科 目 名	介護実習 C（高齢者施設）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 山田弥生 佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	3	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』第 2 版 （中央法規）			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	実習状況、実習に関連する書類、施設評価票と教員の評価、出席状況などをみて総合的に評価する。各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・高齢者施設に入所し介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じ、個別の介護ニーズを理解する。
- ・介護専門職としての信頼関係作りと役割や多職種連携について学ぶ。
- ・実習指導者について、利用者個々の生活支援技術の見学・実践を行い、指導を受ける。
- ・集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。
- ・週 1 回、実習巡回教員が施設を訪問する。実習生は実習状況を報告し、実習巡回教員から指導を受ける。
- ・15日間継続して利用者に関わり、介護過程の展開（情報収集）の学習をする。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを行い、実習での学び、今後に向けた課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景(家族、生活歴等)を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・職員の指導を受けて、学校で学んだ一部の生活支援技術の実践ができる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。
- ・介護過程の展開(アセスメント:情報収集)を実施できる。

3. 授業計画

後期
【高齢者施設実習】 1年次 後期(14日間) 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）または介護老人保健施設で行う。
(1) 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）または介護老人保健施設の機能と役割、実習施設の理念を理解する。
(2) 施設で生活する利用者の特徴と生活の様子を知り、介護を要する原因と生活支援のニーズを理解する。
(3) 利用者の生活を支える基本的な生活支援技術の方法と根拠を学ぶ

(4) 施設で生活する利用者とその家族の思いを理解する。
(5) 介護職員と多職種との情報共有や、連携のあり方について学ぶ。
(6) 利用者の生活を豊かにするレクリエーションを計画し実践する。
(7) 専門用語を使用して実習内容を記録し、授業で学んだ専門的視点を活かした振り返りができる。
(8) 介護過程の展開における情報収集を実践し、課題について考える。

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0901	科 目 名	介護総合演習Ⅰ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 総 合演習	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	通年	単位数	3	授業形態	演習
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」第2版（中央法規出版）			参考書	・「介護実習のてびき」		
成績評価	前期成績及び後期成績は、実習に関連した提出物50%、授業貢献度50%で評価し、各期の按分で最終評価する。						

1. 授業概要

- ・介護実習を想定し、全体指導、グループディスカッション、ロールプレイ等を取り入れ、実践に即したプログラムで授業展開する。
- ・介護実習のサービス種別毎に授業展開する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護施設の概要と利用者の生活、介護福祉士の役割を理解できる。
- ・介護実習だけでなく、社会人として求められるコミュニケーション方法や作法、マナーを習得する。
- ・自身の目標や学習課題を言語化・明確化できる。

3. 授業計画

前期	
1～3	介護総合演習と介護実習の意義・目的、介護福祉士の役割と利用者理解施設調査について
4～6	接遇、立ち居振る舞い、身だしなみ、高齢者通所実習について 実習配属発表、書類作成、書類管理について
7～9	実習事前訪問とは 電話応対、アポイント、訪問時のマナー（演習）
10～12	実習記録の書き方（演習） 申し送りとコミュニケーション演習①
13～15	申し送りとコミュニケーション演習② 高齢者通所実習 実習目標と計画表作成
16～18	高齢者通所実習 事前指導（実習に向けて） 高齢者通所実習 事後指導（グループワーク・実習を終えて）
19～21	有料老人ホームについて、配属発表、実習書類作成 高齢者通所実習の記録の読み返し、回読
22～23	有料老人ホーム実習事前指導（実習に向けて） 有料老人ホーム実習事後指導
後期	
24～26	後期授業・実習の流れ、実習報告会とは、感染症 障害者サービス実習について、障害者福祉の理解、変遷、目標と計画表の作成
27～29	国際福祉機器展研究発表会、有料老人ホーム実習の記録の読み返し、回読 障害者サービス実習事前指導①
30～	障害者サービス実習事前指導②

32	障害者サービス実習事後指導（グループワーク・実習を終えて）
33 ～ 35	障害者サービス実習のプロセスレコード 高齢者施設実習について、書類作成、高齢者施設の理解
36 ～ 38	高齢者施設実習 実習目標と計画表作成、障害者施設実習の記録の読み返し、回読 レクリエーションアクティビティの意義・目的・展開
39 ～ 41	レクリエーションアクティビティ演習①②③
42 ～ 44	高齢者施設実習 事前指導（グループワーク・実習に向けて） 高齢者施設実習 帰校日（学内指導）
45 ～ 46	高齢者施設実習 事後指導（グループワーク） 実習報告会に向けて（中間報告会）

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0502	科 目 名	介護福祉学 A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」第 2 版新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」第 2 版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 80%、授業貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護の歴史、介護問題の背景、諸外国の状況、日本の介護の現状、介護福祉士の社会的役割を学び、国家資格を取得する誇りと専門職の意識を養う。
- ・介護従事者として身につけておかなければならない倫理観を学ぶ。
- ・介護の対象者が、高齢者に偏らないよう、障害者への理解も深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護福祉を取り巻く社会状況を認識し、介護福祉士に求められる役割を理解できる。
- ・介護を必要とする人及び家族の様々な生活課題を理解できる。
- ・多職種の役割や専門性を学び、利用者支援のためには幅広い連携が必要なことを理解できる。
- ・介護福祉士としての倫理観を身につける。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価、 介護福祉の基本となる理念①介護福祉士を取り巻く状況 介護問題の背景（日本の現状と将来）
2	介護福祉の基本となる理念②介護福祉士を取り巻く状況 介護問題の背景（介護の社会化）
3	介護福祉の基本となる理念②介護福祉士を取り巻く状況 介護問題の背景（介護の社会化）
4	介護福祉の基本となる理念③ 介護保険制度の概要1
5	介護福祉の基本となる理念③ 介護保険制度の概要2
6	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士資格、社会福祉士および介護福祉士法
7	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士資格、社会福祉士および介護福祉士法
8	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみフォーマルサービスとインフォーマルサービス
9	協働する多職種の機能と役割① 多職種連携の必要性
10	協働する多職種の機能と役割② 多職種連携（ゲスト：理学療法士）
11	協働する多職種の機能と役割③ 多職種連携（ゲスト：理学療法士）
12	協働する多職種の機能と役割④ 多職種連携（ゲスト：歯科衛生士）
13	協働する多職種の機能と役割⑤ 多職種連携（ゲスト：歯科衛生士）
14	介護福祉士の倫理① 介護実践における倫理
15	試験

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0501	科 目 名	介護福祉入門			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座 3 「介護の基本Ⅰ」第2版 ・最新・介護福祉士養成講座 4 「介護の基本Ⅱ」第2版			参考書			
成績評価	レポート試験 70%、ミニテスト 10%、レポート課題 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・自分の生活を振り返ることで、介護を必要とする人の生活を考える。
- ・見学や視聴覚教材等を通して、高齢者が生きてきた時代を知る。
- ・生きていくことを支援するとはどういうことか考える。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・「生活とは何か」「人間の尊厳とは何か」「個別性とは何か」を考え、理解できる。
- ・介護福祉とは人間理解の過程であり、生活の主体者は利用者であることを理解する。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション①：授業の概要、方法、目標、評価～自己紹介から読み取れるもの～
2	入門オリエンテーション②～介護福祉士を目指す理由～
3	介護を必要とする人の理解①介護福祉を必要とする人たちの暮らし
4	介護を必要とする人の理解①介護福祉を必要とする人たちの暮らし
5	介護を必要とする人の理解②介護福祉を必要とする人たちの暮らし（昭和館、しょうけい館見学）
6	介護を必要とする人の理解②介護福祉を必要とする人たちの暮らし（昭和館、しょうけい館見学）
7	介護を必要とする人の理解③「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
8	私たちの生活の理解①～生活とは何か～
9	私たちの生活の理解②～自分自身の生活史～
10	私たちの生活の理解③～自分自身の人生設計～
11	介護を必要とする人の理解③「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解
12	介護を必要とする人の理解④ 生活のしづらさの理解とその支援
13	介護を必要とする人の理解⑤ 生活のしづらさの理解とその支援 ～楽しみと生きがい～
14	生と死を考える DVD学習 ～家で死ぬということ～
15	生と死を考える、「入門」振り返り、最終まとめレポート

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号		科 目 名	社会人基礎力講座			科目区分	兼任
科 目 群	教 養 科 目	担当講師	相原 芳美 他			履修区分	選択
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書				参考書			
成績評価	出席 30 点、課題 10 点、テスト 60 点						

1. 授業概要

社会人として必要な基礎的な力を理解し、就職に対する意識を高め、チームで働く力や向上心を伸ばします。また、就職や将来の夢を実現するために、自己理解を深めた上での書類の書き方、面接での基本姿勢など実践形式も取り入れた授業を行います。

2. 到達目標

- ・マナーやコミュニケーション等の社会人として必要な力とその重要性を理解している。
- ・基礎的なマナーを理解し、実践できている（挨拶、お礼など、私物を机の上で出さない、上着や帽子の着用等）。
- ・コミュニケーション力が、講座開始時よりも向上している（発信・傾聴）。
- ・自分の長所や短所など、就職活動に必要なアピールポイントを概ね理解できている。
- ・就職活動に対する意識が高まり、準備すべき事柄（書類を書く、エントリーする等）を理解できている。

3. 授業計画

後期	
1	SMBC 特別講座 SMBC コンシューマーファイナンス（株）
2	本授業の目的の理解・「働くということ」「社会人基礎力」の意味と意義の理解
3	社会人に必要なマナーの理解（挨拶・言葉遣い・第一印象・SNS 利用のマナー）
4	コミュニケーション力向上ワークショップ
5	「チームワーク」向上のワークショップ
6	マイナビ説明会 （株）マイナビ
7	「前に踏み出す力」向上のワークショップ
8	「考え抜く力」向上のワークショップ
9	着こなし講座 コナカ・フラッグ
10	就職活動の流れとスケジュールの理解・履歴書とエントリーシートの書き方
11	「自己理解」のためのワークショップ①（価値分析・モチベーション）
12	「自己理解」のためのワークショップ②（好きなこと・得意なこと）
13	「自己理解」のためのワークショップ③（社会人基礎力の再評価・自己PR）
14	会社の仕組みとハウレンソウ・企業が求める人材・面接に向けての心構え
15	面接練習・まとめテスト

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1401	科 目 名	障害の理解A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新・介護福祉士養成講座14「障害の理解」第2版（中央法規出版）			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」成美堂出版		
成績評価	出席状況、レポート（50%）、筆記テスト（50%）を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・心身に障害を持っている者と持っていない者の世界の違いを感じ取る。
- ・障害者を理解し、それぞれの状態、状況に応じた支援方法を学ぶ。
- ・地域におけるサポート体制、チームアプローチ、家族支援について学ぶ
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・障害にあわせた基礎知識を学び、なぜそれが必要なのかを考えることができる。
- ・障害を持つ者の気持ちを理解しようと努め、支援を考える能力を身につける。

3. 授業計画

後期	
1	障害の基礎的理解（障害の概念/障害者福祉の基本理念）
2	障害のある人の心理
3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 肢体不自由（運動機能障害）①
4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 肢体不自由（運動機能障害）②
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 視覚障害
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 聴覚障害
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 言語障害
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 発達障害①
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 発達障害②
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 知的障害
11	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 重複障害
12	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 精神障害①
13	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 精神障害②
14	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援 知的障害のある人の生活 当事者家族から学ぶ
15	まとめ、テスト

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	101	科 目 名	人間の尊厳と倫理			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	人 間 の 尊 厳 と 自 立	担当講師	福正 大輔			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態.	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座1 「人間の理解」第2版（中央法規出版）			参考書	・「人は“命”だけでは生きられない」 ～介護現場で魂に寄り添う牧師の奮闘記～（いのちのことば社、佐々木炎著）		
成績評価	授業の参加・貢献度 30% 授業後のレポート提出 30% 期末試験 40%						

1. 授業概要

・ 「人間」の多面的理解（自己理解・他者理解）について学ぶ ・ 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解する ・ 身体的・精神的・社会的な自立支援とワーカー、クライアント関係について学ぶ ・ 介護福祉専門職として職業倫理観を養う。 ・ 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。 ・ 担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。
--

2. 到達目標

・ 人間の尊厳と自立の意味を理解する ・ 利用者の権利擁護の視点を身につける ・ 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う
--

3. 授業計画

前期	
1	本科目のねらいと概要
2	人間の尊厳と自立—人間の尊厳と利用者主体
3	人間の尊厳と自立—人権思想の潮流とその具現化
4	人間の尊厳と自立—人権や尊厳に関する日本の諸規定
5	人間の尊厳と自立—社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 1
6	人間の尊厳と自立—社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 2
7	人間の尊厳と自立—社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷 3
8	人間の尊厳と自立—人権尊重と権利擁護、自立のあり方
9	介護における尊厳の保持—権利擁護（アドボカシー） 1
10	介護における尊厳の保持—権利擁護（アドボカシー） 2
11	介護における尊厳の保持—福祉援助職の倫理①
12	介護における尊厳の保持—福祉援助職の倫理②
13	ケアの倫理
14	介護における人間の尊厳と自立支援とは
15	まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1102	科 目 名	生活行為のしくみA			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	近藤 真名美			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	通年	単位数	4 単位	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」第2版（中央法規出版） ・「ぜんぶわかる人体解剖図」（成美堂出版）			参考書			
成績評価	レポート、テストを総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・生活を支える介護実践との関係を学ぶ。
- ・生活の障害が生じるメカニズムや、その変化への気づき、対応方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護実践に直接関連するこころとからだのしくみの基礎知識が理解できる。
- ・心身の機能低下や障害が生活行為に及ぼす影響が理解できる。
- ・医療職との連携が理解できる

3. 授業計画

前期	
1	移動に関連したこころとからだのしくみ①第1節 移動のしくみ
2	移動に関連したこころとからだのしくみ② 同上
3	移動に関連したこころとからだのしくみ③ 同上
4	移動に関連したこころとからだのしくみ④第2節 心身の機能低下が移動に及ぼす影響
5	移動に関連したこころとからだのしくみ⑤ 同上
6	移動に関連したこころとからだのしくみ⑥ 同上
7	移動に関連したこころとからだのしくみ⑦第3節 変化の気づきと対応
8	身じたくに関連したこころとからだのしくみ①第1節 身じたくのしくみ
9	身じたくに関連したこころとからだのしくみ② 同上
10	身じたくに関連したこころとからだのしくみ③ 同上
11	身じたくに関連したこころとからだのしくみ④第2節 心身機能低下が身じたくに及ぼす影響
12	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑤ 同上
13	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑥第3節 変化の気づきと対応
14	身じたくに関連したこころとからだのしくみ⑦ 同上
15	テスト
後期	
1	食事に関連したこころとからだのしくみ①第1節 食事のしくみ
2	食事に関連したこころとからだのしくみ② 同上
3	食事に関連したこころとからだのしくみ③第2節 心身の気の低下が食事に及ぼす影響
4	食事に関連したこころとからだのしくみ④ 同上
5	食事に関連したこころとからだのしくみ⑤第3節 変化の気づきと対応
6	食事に関連したこころとからだのしくみ⑥ 同上

7	入浴に関連したところとからだのしくみ①第1節 入浴・清潔保持のしくみ
8	入浴に関連したところとからだのしくみ② 同上
9	入浴に関連したところとからだのしくみ③ 同上
10	入浴に関連したところとからだのしくみ④第2節 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響
11	入浴に関連したところとからだのしくみ⑤ 同上
12	入浴に関連したところとからだのしくみ⑥ 同上
13	入浴に関連したところとからだのしくみ⑦第3節 変化の気づきと対応
14	入浴に関連したところとからだのしくみ⑧ 同上
15	テスト

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0701	科 目 名	生活支援技術Ⅰ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援 技 術	担当講師	佐伯 久美子 曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	3	授業形態	演習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 6・7・8・生活支援技術Ⅰ』第2版(中央法規)			参考書	『最新介護福祉士養成講座 7・生活支援技術Ⅱ』介護福祉士養成講座編集委員会編(中央法規)2019		
成績評価	・筆記試験50%、実技試験50%による総合評価とする。 ・介護実習C(高齢者施設)までに実技試験を合格する必要がある。						

1. 授業概要

- 生活支援の意義、基本的態度、ICFに基づくアセスメントを理解し、自立に向けた「休息・睡眠」「移動」「食事」「身支度」「入浴と清潔の保持」の生活支援技術の基本についての根拠と実践方法を学ぶ。
- 多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。
- 演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- 担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- 利用者を生活の主体者として尊重し、介護福祉士としての基本的態度で実践することができる。
- ICFの視点に基づいたアセスメントを理解し、自立に向けた「休息・睡眠」「移動」「食事」「身支度」「入浴と清潔の保持」の生活支援技術の基本について、根拠と実践方法が分かる。
- 多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。

3. 授業計画

前期	
1～3	授業オリエンテーション：概要、目標、評価、介護実習室の使用上の心得、手洗い 生活支援の理解：生活と生活支援とは、生活行為の種類、ICFの視点に基づくアセスメント 高齢者疑似体験①：介護の対象者の理解 高齢者疑似体験②：介護の対象者の理解
4～7	自立に向けた移動の介護①：ボディメカニクスを活用した介護 休息・睡眠の介護①：睡眠の意義・目的、睡眠の環境を整えるベッドメイキング 休息・睡眠の介護②：ベッドメイキング演習（シーツ交換） 休息・睡眠の介護③：ベッドメイキング演習（シーツ交換）
8～11	事例演習：振り返り演習 事例演習：確認テスト 事例演習：確認テスト 自立に向けた移動の介護②：移動の意義、ICFの視点に基づくアセスメント、 自立に向けた安全な移動・移乗の介護の留意点
12 ～ 14	自立に向けた移動の介護③：起居動作（上方移動・水平移動） 自立に向けた移動の介護④：起居動作（側臥位） 自立に向けた移動の介護⑤：起居動作（端座位・立位）
15 ～ 18	自立に向けた移動の介護⑥：車いすの種類と選択・基本操作 自立に向けた移動の介護⑦：車いすの移動（平地・段差） 自立に向けた移動の介護⑧：車いすの移乗（一部介助） 自立に向けた移動の介護⑨：車いすの移乗（全介助）
19 ～ 20	自立に向けた移動の介護⑩：歩行の介護（福祉用具の種類・歩行の介護） 自立に向けた移動の介護⑪：歩行の介護（平地・段差・階段）
21 ～ 23	事例演習：振り返り演習 事例演習：確認テスト
24 ～ 27	自立に向けた食事の介護①：意義、目的、ICFの視点に基づくアセスメント、美味しく食べることを支える介護、脱水の予防、便秘の予防 自立に向けた食事の介護②：座位の食事介護（自立～一部介助） 自立に向けた食事の介護③：臥位の食事介護（全介助）

		自立に向けた食事の介護④：服薬の介護
28	～	自立に向けた身支度の介護①：意義、目的、ICFの視点に基づくアセスメント、その人らしい身支度と参加を支える介護、多職種との協働
32		自立に向けた身支度の介護②：口腔ケア（食後のケア）
		自立に向けた身支度の介護③：口腔ケア（嚥下機能の維持・向上）
		自立に向けた身支度の介護②：座位の着脱の介護
		自立に向けた身支度の介護③：臥位の着脱の介護
33	～	事例演習：振り返り演習
35		事例演習：確認テスト
		事例演習：確認テスト
36	～	自立に向けた清潔の介護①：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、清潔で快適な生活を支える介護、多職種との協働
44		自立に向けた清潔の介護②：整容（爪切り・ひげの手入れ・洗面・耳）
		自立に向けた清潔の介護③：手浴・足浴
		自立に向けた清潔の介護④：手浴・足浴
		自立に向けた清潔の介護⑤：入浴（家庭用浴槽・特殊浴槽）
		自立に向けた清潔の介護⑥：入浴（家庭用浴槽・特殊浴槽）
		自立に向けた清潔の介護⑤：清拭・洗髪
		自立に向けた清潔の介護⑥：清拭・洗髪
		自立に向けた清潔の介護⑦：清拭・洗髪
45		筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0702	科 目 名	生活支援技術Ⅱ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生活支援技術	担当講師	佐伯 久美子 曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	演習
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座6「生活支援技術Ⅰ」第2版 ・最新・介護福祉士養成講座7「生活支援技術Ⅱ」第2版 ・最新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」第2版 (中央法規出版)			参考書			
成績評価	・筆記試験50%、実技試験50%による総合評価とする。 ・介護実習C（高齢者施設）までに実技試験に合格する必要がある。						

1. 授業概要

- ・生活支援の意義、基本的態度、ICFに基づくアセスメントを理解し、自立に向けた「排泄」「休息・睡眠」の生活支援および、状態・状況に応じた「移動」「食事」の生活支援を展開するための理論と技術を学ぶ。
- ・多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者を生活の主体者として尊重し、介護福祉士としての基本的態度で実践することができる。
- ・ICFの視点に基づいたアセスメントを理解し、自立に向けた「排泄」「休息・睡眠」の生活支援および、状態・状況に応じた「移動」「食事」の生活支援を展開することができる。
- ・多職種と介護福祉士の協働と役割を理解する。

3. 授業計画

後期	
1～7	自立に向けた排泄の介護①：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、自立に向けた排泄を支える介護、多職種との協働 自立に向けた排泄の介護②：尿器・便器 自立に向けた排泄の介護③：尿器・便器 自立に向けた排泄の介護④：ポータブルトイレ・トイレ 自立に向けた排泄の介護⑤：おむつ交換 自立に向けた排泄の介護⑥：おむつ交換 自立に向けた排泄の介護⑦：おむつ交換
8～10	事例演習：振り返り演習 事例演習：確認テスト 事例演習：確認テスト
11～15	休息と睡眠の介護①：意義・目的、ICFの視点に基づくアセスメント、安眠のための介護の工夫、多職種との協働 休息・睡眠の介護②：臥床者のシーツ交換 休息・睡眠の介護③：臥床者のシーツ交換 休息・睡眠の介護④：浴衣の介護 休息・睡眠の介護⑤：浴衣の介護
16～19	休息・睡眠の介護⑥：褥瘡予防と安楽な体位 休息・睡眠の介護⑦：ポジショニング、シーティング 休息・睡眠の介護⑧：温電法 休息・睡眠の介護⑨：冷電法
20	事例演習：振り返り演習

21	～	状態・状況に応じた移動の介護①：外出
22		状態・状況に応じた移動の介護②：外出
23	～	状態・状況に応じた移動の介護③：福祉機器
26		状態・状況に応じた移動の介護④：ストレッチャー
		状態・状況に応じた移動の介護⑤：スライディングボード
		状態・状況に応じた移動の介護⑥：スライディングシート
27	～	状態・状況に応じた移動の介護⑦：視覚障害
29		状態・状況に応じた移動の介護⑧：視覚障害
		状態・状況に応じた食事の介護⑨：視覚障害
30		筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	201	科 目 名	対人援助技術			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	人 間 関 係 と コ ミュニ ケーシ ョン	担当講師	砂田 淳一郎			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座 1 「人間の理解」第 2 版（中央法 規出版）			参考書			
成績評価	授業貢献度・出席状況（20%）、課題レポート（30%）、筆記試験（50%）で総合評価する。						

1. 授業概要

1. 人間関係の形成に必要な「自己覚知」と「他者理解」について、その意義と方法を学ぶ。
2. 社会福祉援助技術を総合的に活用するために、その意義と方法について学ぶ。
3. 介護福祉士の国家試験対策についても触れる。
4. 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
5. 担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

1. 介護実践における人間関係の構築とコミュニケーションの意義・技法について理解する。
2. 福祉専門職としての職業倫理を理解し、しっかりと身に付ける。
3. 介護福祉士の倫理綱領に基づき行動できる能力を習得する。
4. 自己覚知と他者理解について理解する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	福祉専門職の職業倫理①（介護福祉士とは何か）
3	福祉専門職の職業倫理②（介護福祉士の倫理綱領とは何か）
4	人間関係の形成①（対人援助とコミュニケーションの意義①）
5	人間関係の形成②（対人援助とコミュニケーションの意義②）
6	人間関係の形成③（自己覚知と他者理解①）
7	人間関係の形成④（自己覚知と他者理解②）
8	コミュニケーションの基礎①（社会福祉援助技術とは何か）
9	コミュニケーションの基礎②（バイスティックの7原則とは何か）
10	コミュニケーションの技法①（受容・共感・傾聴とは何か①）
11	コミュニケーションの技法②（受容・共感・傾聴とは何か②）
12	コミュニケーションの技法③（言語的・非言語的コミュニケーションとは何か①）
13	コミュニケーションの技法④（言語的・非言語的コミュニケーションとは何か②）
14	対人援助実践と事例検討
15	まとめ（筆記試験）

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1301	科 目 名	認知症概論			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	認 知 症 の理解	担当講師	菅 亜希子			履修区分	必修
開講学年	1 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」第2版（中央 法規出版）			参考書			
成績評価	出席状況 30%、筆記テスト 70%を総合して評価する						

1. 授業概要

- ・認知症の定義、歴史、原因疾患、介護保険制度など、認知症に関する基礎的な知識を学ぶ。
- ・認知症の人や家族に対する支援などについて学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・認知症を理解し、具体的な支援や対応策につなげられる。

3. 授業計画

後期	
1	認知症とは
2	認知症の症状の全体像
3	認知症の症状① 中核症状
4	認知症の症状② BPSD
5	認知症の症状③ 生活障害
6	脳のしくみ
7	認知症の原因疾患
8	認知症の診断と重症度①
9	認知症の診断と重症度②
10	認知症の治療薬・予防
11	認知症施策
12	認知症の人のケア
13	まとめ
14	試験対策
15	試験60分、解説30分

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1201	科 目 名	発達と老化の理解A			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	出席状況、レポート（30%）、筆記テスト（70%）を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・人間の身体や精神面の変化や、社会的活動の可能性等を知り「老い」について知識を深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と医療や介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・発達段階を踏まえた、介護福祉が実践できるようになる。
- ・利用者と介護者の双方の心理を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	人間の成長と発達 発達とは（発達の原則と法則）①
2	人間の成長と発達 発達とは（影響する要因）②
3	人間の発達段階と発達課題（身体的機能の成長と発達）
4	人間の発達段階と発達課題（発達理論、発達課題）
5	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）①
6	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）②
7	人間の発達段階と発達課題（心理的機能の発達）③
8	老年期の特徴と発達課題 ①
9	老年期の特徴と発達課題 ②
10	老年期の特徴と発達課題 ③
11	老化にともなうこころとからだの変化と生活 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 ①
12	老化にともなうこころとからだの変化と生活 老化に伴う社会的な変化と生活への影響 ②
13	老化にともなうこころとからだの変化と生活 老化にともなう心理的な変化と生活への影響①
14	老化にともなうこころとからだの変化と生活 老化にともなう心理的な変化と生活への影響②
15	まとめ テスト

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1202	科 目 名	発達と老化の理解B			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	1 年	開講学期	後期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解」第2版 (中央法規出版)			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)		
成績評価	出席状況、レポート (30%)、筆記テスト (70%) を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・高齢者の身体や精神面の変化や、社会的活動の可能性等を知り「若い」について知識を深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と医療や介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・高齢者の気持ちを踏まえた、介護福祉が実践できるようになる。
- ・利用者と介護者の双方の心理を理解する。
- ・保健・医療・福祉の専門職の一員として連携と協力ができるようになる。

3. 授業計画

後期			
1	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響①	
2	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響②	
3	老化に伴うからだの変化と日常生活	老化に伴う身体機能の変化と日常生活への影響③	
4	老化に伴うこころとからだの変化と生活	老化に伴う身体機能の変化と生活への影響④	
5	高齢者と健康	健康長寿に向けての健康	
6	高齢者と健康	高齢者と健康	
7	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(骨格系・筋系)
8	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(脳・神経系、皮膚・感覚系)
9	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(循環器系)
10	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(呼吸器・消化器系)
11	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(泌尿器・内分泌系)
12	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(歯・悪性新生物・感染症系)
13	高齢者と健康	高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点	(精神系・その他)
14	高齢者と健康	保健医療職との連携	
15	まとめ	テスト	

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	301	科 目 名	福祉と社会保障			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	社会の理解	担当講師	砂田 淳一郎			履修区分	必修
開講学年	1年次	開講学期	通期	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座2 「社会の理解」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	授業貢献度・出席状況（20%）、課題レポート（30%）、筆記試験（50%）で総合評価する。 前期 50%、後期 50%の合算を通期評価とする。						

1. 授業概要

1. 様々な視点から社会構造を理解するとともに、現代社会が抱える問題点について理解する。
2. 日本の社会保障制度の基本的な考え方・歴史的変遷・仕組みについて理解を進める。
3. 介護福祉士の国家試験対策についても触れる。
4. 講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
5. 担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

1. 介護職として、さらに労働者として広い視点で「社会福祉」を捉えることが出来るようにする。
2. すべての人間が人間として生きることを保障されているということについて理解する。
3. 社会保障制度の概要を理解し、介護実践の現場で必要とされる制度の基本的知識を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション
2	生活と福祉について①（日本の社会保障制度と福祉制度①）
3	生活と福祉について②（日本の社会保障制度と福祉制度②）
4	日本の動向について①（日本の現状と課題①）
5	日本の動向について②（日本の現状と課題②）
6	日本の動向について③（日本の現状と課題③）
7	福祉分野の実践的視点について①（福祉分野の横断的学習①）
8	福祉分野の実践的視点について②（福祉分野の横断的学習②）
9	地域包括ケアシステムについて①（今後の福祉の方向性①）
10	地域包括ケアシステムについて②（今後の福祉の方向性②）
11	地域包括ケアシステムについて③（今後の福祉の方向性③）
12	介護の歴史について①（介護保険制度の創設過程と課題①）
13	介護の歴史について②（介護保険制度の創設過程と課題②）
14	介護の歴史について③（介護保険制度の創設過程と課題③）
15	前期のまとめ（筆記試験）
後期	
1	社会保障制度の概要について（社会保障制度の体系図）
2	社会保険関係について①（介護保険制度①）
3	社会保険関係について②（介護保険制度②）
4	社会保険関係について③（介護保険制度③）

5	社会保険関係について④（労働保険制度①）
6	社会保険関係について⑥（労働保険制度②）
7	社会保険関係について⑦（医療保険制度①）
8	社会保険関係について⑧（医療保険制度②）
9	社会保険関係について⑨（年金保険制度①）
10	社会保険関係について⑩（年金保険制度②）
11	公的扶助関係について（生活保護制度）
12	社会福祉関係について①（障害者制度・障害者総合支援法）
13	社会福祉関係について②（児童・家庭福祉制度）
14	介護実践に関する諸制度関係について
15	全体のまとめ（筆記試験）

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	201	科 目 名	チームマネジメント			科目区分	専任実務経験教員
科 目 群	社会の理解	担当講師	曾我辰也			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座「人間の理解」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 80%、授業貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理を理解する。
- ・人材の育成や活用等の人材管理について学ぶ。
- ・チームマネジメントに必要なリーダーシップ・フォロワーシップなど、チーム運営の基本を理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護福祉サービスの特性を理解し、サービスの提供組織に必要なマネジメントに関する基礎的知識を習得できる。
- ・介護福祉サービスにおけるマネジメントを行う上で必要なチームマネジメントの基礎的知識・技術やシステムについて理解できる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション、介護サービスの特性と求められるマネジメント
2	介護実践におけるチームマネジメントの意義①ヒューマンサービスとしての介護サービス
3	介護実践におけるチームマネジメントの意義②介護現場で求められるチームマネジメント
4	介護実践におけるチームマネジメントの意義③介護実践におけるチームマネジメントの取り組み
5	ケアを展開するためのチームマネジメント①ケアを展開するために必要なチームとその取り組み
6	ケアを展開するためのチームマネジメント②チームでケアを展開するためのマネジメント
7	ケアを展開するためのチームマネジメント③チームの力を最大化するためのマネジメント
8	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント①介護福祉職のキャリアと求められる実践力
9	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント②介護福祉職としてのキャリアデザイン
10	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント③介護福祉職としてのキャリア支援と自己研鑽
11	組織の目標達成のためのチームマネジメント①介護サービスを支える組織の構造
12	組織の目標達成のためのチームマネジメント②介護サービスを支える組織の機能と役割
13	組織の目標達成のためのチームマネジメント③介護サービスを支える組織の管理
14	チームマネジメントのまとめ
15	試験

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0506	科 目 名	安全管理と福祉機器の未来			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	半田仁			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	最新・介護福祉士養成講座 4「介護の 基本Ⅱ」（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 50%、特別講師評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・リスクマネジメントの意義とリスクマネジメントの基本的な方法について学ぶ。
- ・安全な介護の技術や環境の整え方、感染症対策、健康と労働の安全について学ぶ。
- ・介護における安全管理と介護ロボットの基本分野、6分野 13 項目を含め、介護においてのロボット技術の活用方法と福祉機器の現状と未来について学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者の生活を支えるためのリスクマネジメントの意義と基本的な方法を理解する。
- ・安全な介護の技術と環境の整え方、感染症対策を理解し、チームワークを通してリスクマネジメントを実践する具体的な方法の基本を理解する。
- ・介護福祉専門職として、健康を維持する意識をもち、実践できるようになる。
- ・介護における安全管理の知識と方法及び介護ロボットの基本分野、6 分野 13 項目を含め、介護においてのロボット技術の活用方法と福祉機器の未来についての考え方を習得する。
- ・福祉機器の技術的進化を理解し、人間とロボットが共存する社会について考えることができる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、目標、方法、評価 リスクマネジメントの基礎知識①：定義、意義、目的
2	リスクマネジメントの基礎知識②-1：身体拘束は何故いけないのか、介護事故とは①
3	リスクマネジメントの基礎知識②-2：身体拘束は何故いけないのか、介護事故とは②
4	リスクマネジメントの基礎知識③：事故防止と基本対策
5	安全で安心な介護：観察、正確な技術、危機予測、分析
6	安全管理と福祉機器の先進技術①：安全管理とは何かを考える
7	安全管理と福祉機器の先進技術②：福祉用具（福祉機器）
8	安全管理と福祉機器の先進技術③：介護ロボットの必要性
9	安全管理と福祉機器の先進技術④：基本分野の概要
10	安全管理と福祉機器の先進技術⑤：移乗、移動、排泄、見守り・コミュニケーション、入浴、介護業務
11	安全管理と福祉機器の先進技術⑥：介護ロボットの未来・ICT等の先進技術
12	リスクマネジメントの基礎知識④：セーフティーマネジメントと緊急時のフロー
13	感染症対策：スタンダードプリコーション、感染症ごとの具体的対策
14	介護従事者の安全：心身の健康管理、労働安全
15	筆記試験

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」					学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1502	科 目 名	医療的ケア 演習 (喀痰吸引演習 経管栄養演習)		科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	医 療 的 ケア	担当講師	山田 弥生		履修区分	
開講学年	2 年	開講学期	後期	単位数	1 単位	授業形態.
教 科 書	最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」第2版 (中央法規出版)			参考書		
成績評価	出席状況、各演習項目の点数 (100%)					

- ・高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」「経管栄養」の技術を習得する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

喀痰吸引、経管栄養を安全かつ適切に実施するための技術を習得する。

[illegible]

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1501	科 目 名	医療的ケア 講義			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	医 療 的 ケア	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	通年	単位数	4 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」第2版 (中央法規出版)			参考書	「ぜんぶわかる人体解剖図」 (成美堂出版)		
成績評価	出席状況、確認テスト、レポート (30%)、筆記テスト (70%) を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・医療を必要とする人の安全と暮らしを守るための基礎的知識として、人間と社会、保健医療制度とチーム医療、安全な療養生活、清潔保持と感染予防、健康状態の把握について学習する。
- ・高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」・「経管栄養」の概論および実施手順について学習する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者・家族の尊厳を守りつつ、医療倫理を理解した上で、安全な療養生活を保障するための知識を得ることができる。
- ・高齢者及び障害児・者の喀痰吸引を、安全・安楽に実施するために必要な基本的知識と手順について理解することができる

3. 授業計画

前期	
1	医療的ケアを学ぶ意義
2	喀痰吸引等制度など
3	医療的ケアと喀痰吸引等の背景
4～5	その他の制度
6	医行為
7～8	安全な療養生活 (1)喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(2)救急蘇生法
9～11	感染予防と清潔保持 (感染予防)
12～14	健康状態の把握 確認テスト
15	まとめ、テスト
後期	
16	高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論 (1) 呼吸のしくみとはたらき (2) いつもと違う呼吸状態 高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」概論 (喀たん吸引とは)
17	喀痰吸引で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
18～19	人工呼吸器と吸引、子どもの吸引
20	喀痰吸引に伴うケア、吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
21	安全確認 急変・事故発生時の対応と事前対策
22	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引の実施手順と留意点、記録及び報告

～23	
24	たん吸引のまとめ 確認テスト
25	高齢者および障害児・者の「経管栄養」概論（消化器のしくみ、消化器の主な症状）
26 ～ 27	高齢者及び障害児・者の「経管栄養」概論（経管栄養とは）
28 ～ 29	経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持
30	注入内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点
31	子どもの経管栄養について、経管栄養に必要なケア 経管栄養にを受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
32	経管栄養に関する感染と予防、経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認
33	急変・事故発生時の対応と事前対策、経管栄養の実施手順と留意点
34	経管栄養のまとめ 確認テスト
35	まとめ、テスト

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0602	科 目 名	介護とコミュニケーション B			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	コミュニケーション技術	担当講師	近藤真名美			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 5 コミュニケーション技術』第 2 版 (中央法規)			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	筆記試験 80%、提出物 20%による総合評価。						

1. 授業概要

- ・介護福祉の実践におけるチームコミュニケーションの意義と方法について学ぶ。
- ・コミュニケーション障害について学び、利用者の抱える難しさを理解して、関わる方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護福祉の実践におけるコミュニケーションの意義と情報の共有方法について理解し、チームワークに基づいた介護福祉の実践ができるようになる。
- ・利用者のコミュニケーション障害の特徴を理解し、利用者の状態に応じた介護福祉職としてのコミュニケーション方法を実践することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション 第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 第1節 基本対応
2	第3章 対象者の特性に応じたコミュニケーション 第2節 視覚障害者のある人への支援
3	同上 聴覚障害のある人への支援
4	同上 構音障害・失語症のある人への支援
5	同上 認知症の人への支援①
6	同上 認知症の人への支援②
7	同上 統合失調症の人への支援
8	同上 うつ病・抑うつ状態の人への支援
9	同上 知的障害・重症心身障害の人への支援
10	同上 発達障害の人への支援
11	第5章 介護におけるチームのコミュニケーション 第1節 チームのコミュニケーション
12	同上 第2節 報告・連絡・相談の技術
13	同上 第3節 記録の技術
14	同上 第4、5節 会議・事例検討
15	テスト

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0803	科 目 名	介護過程Ⅲ			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	介護過程	担当講師	佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 9 介護過程』第 2 版（中央法規）			参考書	授業ごとに配布資料を使用する。		
成績評価	・授業の提出物、レポート（50％） 事例研究（50％）（前期 50％・後期 50％						

1. 授業概要

- ・自立に向けた介護過程の展開を踏まえ、さまざまな状態・状況に応じた介護過程の展開の方法を学ぶ。
- ・介護福祉の実践におけるチームアプローチの意義と実際の方法を学ぶ。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法について考察する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・さまざまな状況や状態の利用者に対しても適切に介護過程を展開するための思考方法が身につく。
- ・専門職のチームの一員として、多職種との連携・協働において介護過程を実践することができる。
- ・介護実習で担当した利用者の介護過程の展開を振り返り、より適切な方法を考察することができる。

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：概要、目標、方法、評価 利用者の状態に応じた介護過程の展開①：事例 1（情報収集）
2	利用者の状態に応じた介護過程の展開②：事例 1（事例の理解・アセスメントの視点）
3	利用者の状態に応じた介護過程の展開③：事例 1（ICF の視点に基づくアセスメント）
4	利用者の状態に応じた介護過程の展開④：事例 1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
5	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑤：事例 1（解釈・関連付け・統合・課題の明確化）
6	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑥：事例 1（介護計画の立案）
7	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑦：事例 1（介護計画の検討）
8	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑧：事例 1（介護計画の実施・評価）
9	利用者の状態に応じた介護過程の展開⑨：事例 1（事例 1 まとめ）・実習とチームアプローチ
10	介護過程の展開の実際①：実習事例の振り返り・報告
11	介護過程の展開の実際②：事例研究の進め方（事例研究の意義・方法）
12	介護過程の展開の実際③：事例研究の進め方（研究テーマと構成の検討・文献検索）
13	介護過程の展開の実際④：事例研究の進め方（研究テーマと構成の検討・文献検索）
14	介護過程の展開の実際⑤：事例研究の作成（介護過程の展開）
15	介護過程の展開の実際⑥：事例研究の作成（介護過程の展開）
後期	
1	介護過程の展開の実際⑦：事例研究の作成（研究テーマ・はじめに・研究方法）
2	介護過程の展開の実際⑧：事例研究の作成（研究テーマ・はじめに・研究方法）
3	介護過程の展開の実際⑨：事例研究の作成（ここまでの修正・考察 1 の作成）
4	介護過程の展開の実際⑩：事例研究の作成（考察 1 の作成）

5	介護過程の展開の実際⑪：事例研究の作成（考察１の作成）
6	介護過程の展開の実際⑫：事例研究の作成（考察１の修正・考察２の作成）
7	介護過程の展開の実際⑬：事例研究の作成（考察２の作成）
8	介護過程の展開の実際⑭：事例研究の作成（考察２の作成）
9	介護過程の展開の実際⑮：事例研究の作成（考察２の修正・結論・おわりに・文献一覧の作成）
10	介護過程の展開の実際⑯：事例研究の作成（結論・おわりに・文献一覧の作成）
11	介護過程の展開の実際⑰：事例研究の作成（結論・おわりに・文献一覧の修正）
12	介護過程の展開の実際⑱：事例研究の発表の準備（発表の方法・抄録の作成）
13	介護過程の展開の実際⑲：事例研究の発表の準備（抄録の修正・発表原稿と資料の作成）
14	介護過程の展開の実際⑳：事例研究の発表（発表・質疑応答）
15	介護過程の展開の実際㉑：事例研究の発表（発表・質疑応答・総評）

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1004	科 目 名	介護実習D （事業Ⅱ 施設実習）			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 山田弥生 佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	5	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』第 2 版 （中央法規）			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	実習状況、レポート、出席状況などをみて総合的に評価する。各実習の実習評価票による評価。 施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。						

1. 授業概要

- ・23日間にわたり、継続して利用者と関わり、介護過程の展開（観察、情報収集とアセスメント、個別介護計画立案・実施・評価）の一連のプロセスを実施する。
- ・利用者個別の介護ニーズの理解、並びに介護専門職としての信頼関係作りと役割、利用者や家族への支援の必要性について学ぶ。
- ・サービス担当者会議（カンファレンス）や申し送り等に参加し、情報共有や多職種連携、地域ケアの在り方を理解し、チームの一員として介護を遂行する能力を養う。
- ・集団あるいは個別に行なうレクリエーションの意義を理解し、計画し実践できるようになる。
- ・週1回、実習巡回教員が施設を訪問する。実習生は実習状況を報告し、実習巡回教員の指導を受ける。
- ・実習期間中に帰校日を数回設け、学内に於いてグループワークや個別面談指導を実施する。実習の進捗状況を確認・調整し、それまでの実習を振り返り、課題の整理とこれからの実習目標について確認を行う。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りを発表し、今後の課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・これまでの実習目標の達成・継続を前提に、利用者の個別的な介護の実践を行い、より専門的・計画的に介護サービスを提供する力を身につける。
- ・観察、コミュニケーション、記録類を通じて介護に必要な情報を幅広く収集できる。
- ・一つひとつの情報のもつ意味を解釈し、情報同士の関連付け・統合化ができる。
- ・アセスメントで導いた課題の優先度を考え、生活課題の明確化ができる。
- ・利用者や多職種と共に個別の介護計画（介護目標、具体的な援助内容・方法）を立案することができる。
- ・利用者の安全性、快適さ、自立に配慮した介護計画の実施と一人ひとりに合った生活支援技術の実践ができる。
- ・介護目標を達成できたかについて、評価することができる。
- ・具体的な援助内容・方法が適切であったかについて、評価することができる。
- ・介護計画を修正する必要があるかの判断ができる。

3. 授業計画

前期
【事業Ⅱ 施設実習】2年次 前期（23日間） 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）、介護老人保健施設、障害者支援施設等で行う。

(1) 法制度における実習施設の機能と役割、実習施設の理念を理解する。
(2) 施設で生活する利用者の特徴と生活の様子を知り、介護を要する原因と生活支援のニーズを理解する。
(3) 利用者の生活を支える基本的な生活支援技術の方法とその根拠を学ぶ。
(4) 施設で生活する利用者とその家族の思いを理解する。
(5) 変則勤務（夜勤を含む）を行い、各勤務帯の役割や、職員間の情報共有と連携・協働、利用者の生活全般の支援について学ぶ
(6) さまざまな会議（カンファレンス）等への参加と、チームアプローチの実際を学び、よりよい介護に向けた実践のあり方を理解する。
(7) 利用者の生活を豊かにするレクリエーションを計画し実践する。
(8) 専門用語を使用しながら実習の内容を記録し、授業で学んだ専門的視点を活かした振り返りができる。
(9) 1人の利用者を担当し、介護過程の展開におけるアセスメント、計画の立案、実施と結果、評価の一連の流れを実践し、個別性のある利用者の生活を支援することができる。
(10) 介護の理念の実現、施設の理念の実現に向けた介護福祉士のさまざまな役割と実践のあり方について考えることができる。

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1005	科 目 名	介護実習 E (訪問・認知症グループホーム)			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護実習	担当講師	曾我辰也 山田弥生 佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	2	授業形態	実習
教 科 書	『最新介護福祉士養成講座 15 介護総合演習・介護実習』第 2 版 (中央法規)			参考書	配布資料『実習のてびき』を使用する。		
成績評価	実習状況、実習に関連する書類、施設評価票と教員の評価、出席状況などをみて総合的に評価する。各実習の実習評価票による評価。施設評価 50%、教員評価 50%で評価する。 訪問実習 3/9、認知症グループホーム実習 6/9 の配分で評価する。						

1. 授業概要

- ・居宅やグループホームにおいて介護を必要とする利用者との人間的な関わりを通じて、利用者のニーズを理解する。
- ・居宅やグループホームにおける介護専門職としての役割、言語的および非言語的コミュニケーションの技術と信頼関係の構築について学ぶ。
- ・実習指導者について、個別ニーズに基づく日常生活支援や、多職種連携の在り方、地域社会とのつながりや環境的配慮の実践について学ぶ。
- ・認知症グループホーム実習では、週 1 回、実習巡回教員が事業所を訪問する。巡回指導を受ける。
- ・実習最終日には、実習指導者と学生とで実習反省会を実施し、実習目標に向けた振り返りと、今後の課題を確認する。
- ・施設での実習を基本とするが、実習の前後において総合演習科目と連動し実践的な介護福祉実習とする。

2. 到達目標

- ・様々な生活の場における、利用者の住まいと暮らしについて理解できる。
- ・利用者が主体的に日常生活を送れるよう支援する必要性を理解できる。
- ・利用者の心身の状態や生活の背景（家族、生活歴等）を理解し、個々のライフスタイルを尊重することについて理解できる。
- ・受容・共感的態度を基盤に利用者に関わり、信頼関係を築き、利用者の主体性を尊重したかかわり方を理解できる。
- ・生活支援技術を見学し、基本原則を確認し、利用者の個別に違う自立支援のあり方を理解できる。
- ・職員の指導を受けて、学校で学んだ一部の生活支援技術の実践ができる。
- ・自分の価値観や思考の傾向、感情、言語・非言語の特徴を意識したうえで、利用者の状況に即した適切な表現や行動の必要が理解できる。

3. 授業計画

前期
【訪問介護実習】2 年次 前期 (2日間 or 1 日間) 【入浴介護実習】2 年次 前期 (1 日) 訪問介護サービス事業所、訪問入浴介護事業所で行う (※訪問入浴実習は選択制)。
(1) 在宅で暮らす利用者の個別的な生活の様子と、生活環境、疾病および障害について理解する。
(2) 在宅生活を支える家事支援 (生活援助)、入浴ケア、その他の生活支援の方法について学ぶ。
(3) 必要な情報を収集するための利用者・家族とのコミュニケーションの方法や家族支援について学ぶ。
(4) 訪問介護、訪問入浴における多職種連携の実践の様子を知る。

(5) 正確にわかりやすい記録を行い、学校での学習を踏まえた考察ができる。

後期

【認知症グループホーム実習】2年次 後期（5日間）

認知症対応型共同生活介護事業所（認知症グループホーム）で行う実習。

(1) 認知症対応型共同生活介護の機能と役割、事業所の理念を理解する。

(2) 認知症の人の心身の状況に配慮した日常生活の支援の方法を理解し、実践できる。

(3) 認知症の人に自信と感情を回復する、生活者としての活動と役割の支援について理解する。

(4) 認知症の人の豊かな人間関係を保ち支えあうための支援について理解する。

(5) 認知症の人の精神の安定と、信頼関係を築くためのコミュニケーションを行なうことができる。

(6) 認知症のある人の状態・状況に応じたレクリエーションを計画し、実践することができる。

(7) 実習の内容を正確に記録し、認知症ケアのあり方や介護福祉士に求められるケアについて考え、専門的で多角的な視点で考察することができる。

科目の教育目標・授業計画 「2025」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0902	科 目 名	介護総合演習Ⅱ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 総 合演習	担当講師	曾我辰也			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	最新・介護福祉士養成講座 10「介護総合演習・介護実習」第2版（中央法規出版）			参考書	・「介護実習のてびき」		
成績評価	前期成績及び後期成績は、実習に関連した提出物50%、授業貢献度50%で評価し、各期の按分で最終評価する。 各介護実習前の「介護総合演習Ⅱ」の出席は、2/3以上満たす必要がある。						

1. 授業概要

- ・介護実習を想定し、全体指導、グループディスカッション、ロールプレイ等を取り入れ、実践に即したプログラムで授業展開する。
- ・介護実習のサービス種別毎に授業展開する。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護施設の概要と利用者の生活を理解し、介護福祉士に求められる倫理性と専門性を理解できる。
- ・個別ケアの在り方が介護過程の展開や生活支援技術の実践を通じて理解でき学習の統合化ができる。

3. 授業計画

前期	
1	2年次の介護実習予定、訪問入浴介護、訪問介護実習について、書類作成
2	訪問入浴介護、訪問介護実習について、実習目標、玄関先のマナー、居宅でのマナー(演習)
3	実習事前指導(グループワーク、実習に向けて)
4	実習事後指導(グループワーク、実習を終えて)
5	施設実習について、書類作成
6	施設実習 実習目標と計画表作成
7	施設実習 実習目標と計画表作成
8	施設実習 帰校日(学内指導)
9	施設実習 帰校日(学内指導)
10	実習事後指導(グループワーク、実習を終えて)、認知症グループホーム実習について
後期	
11	後期の授業予定、実習報告会について、グループホームの理、実習目標と計画表作成解
12	施設実習の記録回読
13	実習報告書の中間報告
14	実習報告会
15	実習報告会、授業アンケート

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0503	科 目 名	介護福祉学 B			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座 3「介護の基本Ⅰ」第2版（中央法規出版） ・最新・介護福祉士養成講座 4「介護の基本Ⅱ」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 80%、授業貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・介護福祉の専門職として必要な視点を学び、利用者や家族への支援の在り方を理解する。
- ・介護従事者として身につけておかねばならない倫理観を学ぶ。
- ・介護の対象者が、高齢者に偏らないよう、障害者への理解も深める。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・専門職能団体の機能や役割を認識し、介護福祉士に求められる役割と倫理観を身につける。
- ・介護を必要とする人及び家族の様々な生活課題を理解できる。
- ・多職種の役割や専門性を学び、利用者支援のためには幅広い連携が必要なことを理解できる。
- ・介護福祉士として利用者の尊厳と自立を考え、実践することができる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価、介護福祉士を支える団体 職能団体のもつ役割と日本介護福祉士会
2	介護福祉士を支える団体 日本介護福祉士会の活動と倫理綱領
3	自立に向けた介護福祉のあり方① 介護福祉士における自立支援
4	自立に向けた介護福祉のあり方② ICFの考え方1
5	自立に向けた介護福祉のあり方③ ICFの考え方2
6	自立に向けた介護福祉のあり方④ 自立支援とリハビリテーション1
7	自立に向けた介護福祉のあり方⑤ 自立支援とリハビリテーション2
8	自立に向けた介護福祉のあり方⑥ 自立支援と介護予防
9	尊厳を支える介護 虐待と身体拘束
10	尊厳を支える介護 虐待と身体拘束
11	様々な生活支援とその意義 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
12	様々な生活支援とその意義 点字・手話（ゲスト：手話通訳士）
13	地域連携 地域福祉にかかわる組織・団体
14	地域連携 地域福祉にかかわる組織・団体
15	試験

科目の教育目標・授業計画「2025年度」					学 科 名	介護福祉学科	
科目番号	1602	科 目 名	介護保険事務			科目区分	専任実務経験教員
科 目 群	福 祉 教 養科目	担当講師	未定			履修区分	選択
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・主催団体の教材（テキスト使用）			参考書			
成績評価	主催団体が作成する認定試験に合格すること。 合格者には、団体より認定合格証が交付。						

1. 授業概要

- ・サービス種別毎の介護給付費請求に係る算定方法等の基本的な知識を学び、介護報酬請求事務や介護給付費請求書の作成を行う。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護保険制度におけるサービス種別毎の請求業務を理解し、実践することで、卒業後の介護現場での実務者としての能力を広げる。
- ・介護保険制度における介護事業の運営に必要な保険請求の基本的知識と技術を習得する。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価、サービス全般の共通事項
2	介護保険制度の基礎知識①：介護保険のしくみ
3	介護保険制度の基礎知識②：介護保険サービス提供の流れ
4	介護保険サービスの種類と内容
5	介護報酬の算定①：介護報酬とは
6	介護報酬の算定②：介護報酬の基本的なルールと利用者負担
7	算定の仕方①：居宅サービス
8	算定の仕方②：施設サービス
9	算定の仕方③：施設サービス
10	算定の仕方④：地域密着サービス
11	算定の仕方⑤：介護予防
12	請求の支払いのしくみ・利用者負担の徴収・他制度との関係
13	介護レセプト
14	練習問題
15	本試験に向けて・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0504	科 目 名	高齢者サービス概論			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護の 基本	担当講師	曾我 辰也			履修区分	必修
開講学年	2年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	最新・介護福祉士養成講座 4「介護の 基本Ⅱ」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	筆記試験 80%、授業貢献度 20%で評価する。						

1. 授業概要

・高齢者福祉の歴史的変遷と高齢者を取り巻く社会的背景を知り、支援の必要性を学ぶ。 ・介護保険サービスの種類やサービスの報酬・算定基準についての理解を深め、介護サービスの提供の場の特性を学ぶ。 ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。 ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。
--

2. 到達目標

・介護保険制度および高齢者支援の目的を理解する。 ・介護保険サービスの特徴、高齢者介護の実践の場を理解し、介護福祉士に求められる義務・役割を理解する。 ・チームアプローチによるサービスを提供するために、他職種の業務の理解と連携のイメージが図れる。 ・介護の現場の運営や経営に関心を持つ。
--

3. 授業計画

前期	
1	授業オリエンテーション：授業の概要、方法、目標、評価 介護サービスの特性①～介護サービスの意味と特性
2	介護サービスの特性②～ケアマネジメントの意味と仕組み
3	介護サービスの特性③～介護サービスの歴史的変遷と時代背景
4	介護サービスの特性④～介護保険制度 介護保険制度の概要1
5	介護サービスの特性⑤～介護保険制度 介護保険制度の概要2
6	介護サービスの特性⑥～介護保険制度 介護保険制度の概要3
7	介護サービスの特性⑦～地域包括ケアシステム
8	介護サービス提供の場の特性①～訪問系サービス
9	介護サービス提供の場の特性②～通所・短期入所系サービス
10	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス1
11	介護サービス提供の場の特性③～入所・入居系サービス2
12	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス1
13	介護サービス提供の場の特性④～地域密着型サービス2
14	介護サービス提供の場の特性⑤～福祉用具・住宅改修
15	試験

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0402	科 目 名	試験対策講座			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	介護教養講座	担当講師	曾我辰也・山田弥生・佐伯久美子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	通年	単位数	4	授業形態	講義
教 科 書	『クエスチョンバンク介護福祉士国家試験過去問題解説集 2024』医療情報科学研究所編（メディックメディア）			参考書	『介護福祉士国家試験過去問題集 2024』介護福祉士国家試験受験研究会編（中央法規）		
成績評価	前期：科目修了試験 100%、後期：学力評価試験 100%、各期の按分で最終評価する。						

1. 授業概要

- ・介護福祉士国家試験の概要と意義について学び、試験に向けた学習方法を学ぶ。
- ・国家試験過去問題や模擬問題等の学習と、科目ごとの学習を繰り返し行う。
- ・前期は、国家試験問題を学習し、理解できるように講義・グループ学習を行なう。
- ・後期授業は、学力別にクラス編成を行なう。学習計画を提出し、クラスの進行状況に合わせて、模擬問題を中心に実施する、又は領域学習を中心に実施する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護福祉士として求められる専門的な知識を身につけ、活用できるようになる。
- ・介護福祉士国家試験において、確実に80点以上の得点を取得することができる。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション・国家試験の概要について、こころとからだのしくみ①
2	こころとからだのしくみ②
3	こころとからだのしくみ③
4	介護の領域①
5	過去問題テスト
6	介護の領域②
7	介護の領域③
8	人間と社会のしくみ①
9	人間と社会のしくみ②
10	人間と社会のしくみ③
11	過去問題・模擬試験解説（介護）
12	過去問題・模擬試験解説（こころとからだのしくみ）
13	過去問題・模擬試験解説（人間と社会の理解①）
14	過去問題・模擬試験解説（人間と社会の理解②）
15	科目終了試験
後期	
1	オリエンテーション

2	模擬試験解説（介護）
3	模擬試験解説（こころとからだのしくみ）
4	模擬試験解説（人間と社会の理解①）
5	模擬試験解説（人間と社会の理解②）
6	模擬試験（復習）A・Bクラス別
7	模擬試験（復習）A・Bクラス別
8	模擬試験（復習）A・Bクラス別
9	学力評価試験解説（介護）
10	学力評価試験解説（こころとからだのしくみ）
11	学力評価試験解説（人間と社会の理解）
12	学力評価試験のとき直し
13	過去問題（復習）A・Bクラス別
14	過去問題（復習）A・Bクラス別
15	過去問題（復習）A・Bクラス別

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1302	科 目 名	障害の理解B			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	こころとからだのしくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	最新介護福祉士養成講座13「障害の理解」第2版（中央法規）			参考書			
成績評価	出席状況、レポート（40%）、筆記テスト（60%）を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・心身に障害を持っている者と持っていない者の世界の違いを感じ取る。
- ・障害者を理解し、それぞれの状態、状況に応じた支援方法を学ぶ。
- ・地域におけるサポート体制、チームアプローチ、家族支援について学ぶ
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・障害にあわせた基礎知識を学び、なぜそれが必要なのかを考えることができる。
- ・障害を持つ者の気持ちを理解しようと努め、支援を考える能力を身につける。

3. 授業計画

前期		
1	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	高次脳機能障害
2	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（心機能障害）
3	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（呼吸機能障害）
4	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（腎機能障害膀胱）
5	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（膀胱・直腸機能障害）
6	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害）
7	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	内部障害（肝臓機能障害）
8	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	重症心身障害
9	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	難病①
10	障害別の基礎的理解と特性に応じた支援	難病②
11	連携と協働①	
12	連携と協働②	
13	家族への支援①	
14	家族への支援②	
15	まとめ、テスト	

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0505	科 目 名	障害者サービス概論			科目区分	兼任 実務経験教員
科 目 群	介 護 の 基本	担当講師	岩崎 京子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座 2「社会 の理解」第 2 版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	試験、授業貢献度等を総合して評価する。具体的には、期末試験 80%、平常点や授業への貢献度 20% で評価する。						

1. 授業概要

- ・障害および障害者介護の実践の場を具体的にイメージするため、現場の職員の話から理解する。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・障害者福祉の変遷と障害者総合支援法を理解する。
- ・障害者に対する支援の場と支援方法を理解する。
- ・障害の特性に応じた介護方法を理解する。

3. 授業計画

前期	
1	障害者福祉制度の変遷①—障害者福祉の歴史
2	障害者福祉制度の変遷②—障害者基本計画、新障害者プラン
3	障害者支援制度①—障害者福祉支援法の目的とサービス
4	障害者支援制度②—自立支援給付と利用者負担
5	障害者支援制度③—国・都道府県・市区町村の役割、専門職の役割
6	自立に向けた介護①—ICFの考え方とアセスメント
7	自立に向けた介護②—ケアマネジメント
8	自立に向けた介護③—リハビリテーション
9	介護を必要とする人の理解（障害のある人のくらしの理解）①
10	介護を必要とする人の理解（障害のある人のくらしの理解）②
11	介護を必要とする人の理解（障害のある人のくらしの理解）③
12	介護を必要とする人の理解（障害のある人のくらしの理解）④
13	介護を必要とする人の理解（障害のある人のくらしの理解）⑤
14	障害者の就労支援
15	まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1403	科 目 名	生活行為のしくみ B			科目区分	専任 実務者教員
科 目 群	こころと からだの しくみ	担当講師	山田 弥生			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2 単位	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座11 「こころとからだのしくみ」 第2版（中央法規出版） ・「ぜんぶわかる人体解剖図」 （成美堂出版）			参考書			
成績評価	出席状況、レポート（30%）、筆記テスト（70%）を総合して評価する。						

1. 授業概要

- ・生活を支える介護実践との関係を学ぶ。
- ・生活の障害が生じるメカニズムや、その変化への気づき、対応方法を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・各生活支援技術のこころとからだのしくみが理解できる。
- ・心身の機能低下や障害が生活行為に及ぼす影響が理解できる。
- ・生活支援技術の観察項目を理解できる。
- ・医療職との連携が理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	排泄に関連したこころとからだのしくみ①排泄の意味
2	排泄に関連したこころとからだのしくみ②排便のしくみとスムーズな排便の促し
3	排泄に関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響
4	排泄に関連したこころとからだのしくみ④機能の低下・障害が及ぼす排泄の影響
5	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑤医療職との連携
6	排泄に関連したこころとからだのしくみ⑥排泄のまとめ 確認テスト
7	睡眠に関連したこころとからだのしくみ①睡眠の意味
8	睡眠に関連したこころとからだのしくみ②睡眠が及ぼすからだへの影響
9	睡眠に関連したこころとからだのしくみ③機能の低下・障害が及ぼす睡眠への影響
10	睡眠に関連したこころとからだのしくみ④医療職との連携、睡眠のまとめ 確認テスト
11	死にゆく人のこころとからだのしくみ①死のとらえ方、終末期のからだの理解
12	死にゆく人のこころとからだのしくみ②ターミナルケアと緩和ケア
13	死にゆく人のこころとからだのしくみ③死を受容するプロセス
14	死にゆく人のこころとからだのしくみ④医療職との連携、死のまとめ
15	テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	706	科 目 名	生活支援技術（家事）			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援技術	担当講師	横田きよ子			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座6 「生活支援技術Ⅰ」第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	平常点10％ 実習レポート50％ 期末テスト40％						

1. 授業概要

- ・介助を必要とする人の生活と、その個別性を尊重し、「自立に向けた家事の介護」の意義・目的を考える。
- ・幅広い生活上の援助を行うための基礎となる技術を幅広く習得していくことを目指す。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者の生活と個別性を尊重する意義を理解する。
- ・日常生活における家事の介助の意義・目的を理解する。
- ・利用者の個別性を理解し、適切な家事の介助を提供できる技術を習得する。

3. 授業計画

前期	
1	家事の意義と目的
2	居住環境・掃除・洗濯・繕い物等講義
3	疾病と栄養
4	献立作成（グループ単位）
5	（実習）縫い物（名札・ボタン付け）・アイロンかけ
6	（実習）調理室の清掃・食品衛生含む
7	（調理実習）《テーマ》6つの基礎食品をバランスよくとった食事
8	（調理実習）《テーマ》6つの基礎食品をバランスよくとった食事
9	（調理実習）《テーマ》エネルギー・塩分を減らした食事
10	（調理実習）《テーマ》エネルギー・塩分を減らした食事
11	（調理実習）《テーマ》鉄やカルシウムを強化した食事
12	（調理実習）《テーマ》鉄やカルシウムを強化した食事
13	（調理実習）《テーマ》摂食嚥下に配慮した食事
14	（調理実習）《テーマ》摂食嚥下に配慮した食事
15	テスト・まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0703	科 目 名	生活支援技術Ⅲ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援技術	担当講師	佐伯 久美子・宮崎 弘美			履修区分	必修
開講学年	2 年	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	演習
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」 第2版・最新・介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」 第2版・最新・介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」 第2版（中央法規）			参考書			
成績評価	・授業への参加態度、提出物、実技（50%）、筆記試験（50%）による総合評価。						

1. 授業概要

- ・「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識を活用し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術及び、見守りから看取りまでの生活支援技術を学ぶ。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・介護福祉の専門的な知識と技術を活用し、利用者の状態・状況に応じた個別的な生活支援を展開することができる。
- ・多職種との連携による見守りから看取りまでの生活支援について理解する。

3. 授業計画

前期	
1	オリエンテーション 身体障害に応じた介護①：移動・移乗事例
2～3	身体障害に応じた介護②③：移動・移乗事例
4～6	身体障害に応じた介護④⑤⑥：離床時介助事例
7～9	身体障害に応じた介護⑦⑧⑨：排泄介助事例
10～12	身体障害に応じた介護⑩⑪⑫：清潔保持事例
13 ～ 15	身体障害に応じた介護⑬⑭⑮：食事介助事例
16 ～ 18	福祉用具の意義と活用①：適切な福祉用具を選ぶ為の視点 福祉用具の意義と活用②：移動支援機器の活用 福祉用具の意義と活用③：事例検討身体障害に応じた介護⑦⑧：重症心身障害に応じた介護
19 ～ 21	身体障害に応じた介護⑯⑰⑱入浴介助事例
22 ～ 24	終末期の介護①：終末期の介護の意味、死生観 終末期の介護②：安定期から看取りまでの介護、医療、介護、利用者家族との連携 終末期の介護③：死後のケア、グリーフワーク
25 ～ 26	緊急時の対応①②：誤嚥・骨折・熱傷・呼吸停止
27 ～	実技テスト

28	
29	筆記試験
30	振り返り

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	0704	科 目 名	生活支援技術Ⅳ			科目区分	専任 実務経験教員
科 目 群	生 活 支 援 技 術	担当講師	佐伯 久美子・宮崎 弘美			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	後期	単位数	1	授業形態	演習
教 科 書	・最新・介護福祉士養成講座 6 「生活支援技術Ⅰ」 第2版・最新・介護福祉士養成講座 7 「生活支援技術Ⅱ」 第2版・最新・介護福祉士養成講座 8 「生活支援技術Ⅲ」 第2版（中央法規出版）			参考書			
成績評価	授業への参加態度、筆記試験等による総合評価						

1. 授業概要

- ・安全で心地よい生活の場作りについて学び、室内環境を整える基礎知識を身につける。
- ・「人間と社会」「こころとからだのしくみ」「介護」で学んだ知識を活用し、様々な場面における生活支援技術の事例について、展開方法を考え実践方法を演習し、身につける。
- ・演習形式を基本とするが、実用的な学習・講義の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・利用者の自立と尊厳の保持の理念をもち、利用者の生活を支える住環境等の背景と、心身の状態・状況に応じた生活支援の方法について、専門知識を統合して考えられるようになる。
- ・さまざまな場面において、介護福祉士として質の高い生活支援を実践することができる。

3. 授業計画

後期	
1	授業オリエンテーション 安全で心地よい生活の場作り①：住宅改修、住宅のバリアフリー、ユニバーサルデザイン、施設等 の工夫、留意点（ユニットケア、居室の個室化、なじみの生活空間づくり）、多職種との連携、住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
2	安全で心地よい生活の場作り②：住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
3	安全で心地よい生活の場作り③：住宅内の安全（室内、浴室、トイレ、階段）
4	安全で心地よい生活の場作り④：まとめ
5	国家試験対策①：生活支援技術（家事の支援）
6	国家試験対策②：生活支援技術（家事の支援）
7	国家試験対策③：生活支援技術（移動の介護）
8	国家試験対策④：生活支援技術（食事の介護）
9	国家試験対策⑤：生活支援技術（身支度の介護）
10	国家試験対策⑥：生活支援技術（清潔の介護）
11	国家試験対策⑦：生活支援技術（排泄の介護）
12	国家試験対策⑧：生活支援技術（排泄の介護）
13	振り返り・実技確認テスト
14	振り返り・実技確認テスト
15	筆記試験・まとめ

科目の教育目標・授業計画「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1202	科 目 名	認知症援助論			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	認 知 症 の理解	担当講師	佐々木 由恵			履修区分	必修
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	・最新介護福祉士養成講座 13 「認知症の理解」第2版 (中央法規出版)			参考書			
成績評価	筆記テスト 100%で評価する。						

1. 授業概要

- ・認知症の人や家族、またその人たちを支える地域連携に対する支援について学ぶ。
- ・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活を理解し、具体的な対応策につなげることを学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・認知症のケア、障害、心理や家族支援など現状や課題を理解できる。
- ・機能の変化と日常生活への影響が理解できる。

3. 授業計画

前期	
1	認知症の人の生活の場と介護①適した生活環境と支援体制
2	認知症の人の生活の場と介護②適した生活環境と支援体制
3	認知症の人の生活の場と介護③在宅で生活する認知症の人たちと家族への支援
4	認知症の人の生活の場と介護④在宅で生活する認知症の人たちと家族への支援
5	認知症の人の生活の場と介護⑤グループホームに入所している認知症の人の介護
6	認知症の人の生活の場と介護⑥施設に入所している認知症の人の介護
7	認知症の人を支える理論：①
8	認知症の人を支える理論：②
9	認知症の人の生活を支えるケアの実践：①
10	認知症の人の生活を支えるケアの実践：②
11	認知症の人の生活を支えるケアの実践：③
12	認知症の人への生活支援の事例②若年性認知症
13	連携と協働①チームアプローチと介護職の果たす役割：①
14	連携と協働②チームアプローチと介護職の役割：②
15	テスト、まとめ

科目の教育目標・授業計画 「2025年度」						学 科 名	介護福祉学科
科目番号	1601	科 目 名	福祉住環境			科目区分	兼任実務経験教員
科 目 群	福 祉 教 養科目	担当講師	河村 春美			履修区分	選択
開講学年	2 年次	開講学期	前期	単位数	2	授業形態	講義
教 科 書	福祉住環境コーディネーター 検定試験 2 級公式テキスト 改 訂 7 版（東京商工会議所）			参考書			
成績評価	筆記テスト 60%、授業貢献度（レポート提出） 20%、出席状況 20%で評価する。						

1. 授業概要

- ・福祉住環境コーディネーター資格取得のための専門的知識・技術を学ぶ。
- ・講義形式を基本とするが、実用的な学習・演習の時間も適宜取り入れる。
- ・担当教員は、豊富な実務経験と介護福祉に関する知見から、より実践的な授業を展開する。

2. 到達目標

- ・福祉住環境コーディネーター2級資格を取得する。

3. 授業計画

前期	
1	住環境整備の意義
2	住環境における福祉の考え方
3	福祉住環境コーディネーターの役割と機能
4	住環境整備関連職への理解と連携
5	福祉住環境整備相談の受け方・対応の方法
6	高齢者や障害者に対する住生活関連諸施策
7	高齢者や障害者の疾患と障害特性
8	介護と住環境整備
9	福祉住環境整備の実践的考え方
10	福祉住環境整備の共通基本技術
11	部屋別・場所別福祉住環境整備の手法
12	福祉住環境整備実践のための住宅に必要な基礎知識
13	福祉用具の基本性能
14	福祉用具の具体的な活用①
15	福祉用具の具体的な活用②